

石川富士郎

岩手医科大学歯学部 歯科矯正学講座

この10年間、岩手医科大学歯学部という環境の中で私は歯科矯正学の教育を分担してきた。歯学教育問題を論ずるには、余りにも若輩であるが、あえて大学人として述べる機会を与えていただいた。

私は、幸いに最近東京の専門学会シンポジウムにおいて「歯科矯正学を考える一卒前および卒業教育について」のテーマで教育者の立場から、この問題に触れる機会を得た。その折りに、全国既設歯学教育機関の歯科矯正学教育に携わっている方々からも歯科矯正

学教育の実態をおおしえいただき、つぶさに知ることができた。一方、「歯学部設置基準の改善について」とくに、歯学教育の目標、学部の教育研究組織、教育組織、学生定員、校地校舎、諸設備、付属病院など、その関係審議会において焦点が絞られた。併せて、「歯学の大学院および学位制度の改善について」の中間報告も寄せられてきた。

これらの大へん時期を得た資料にも言及して与えられた僅かな時間内で、本学の一臨床講座として歩むべき責務について、私なりの思考の一端を述べてみた。

## 第72回歯学談話会（最終回）記録

昭和51年3月12日（金）午後5時より歯学部第4講義室において第72回の歯学談話会が開催された。演題は斎藤教授（歯科薬理）による「第6回国際薬理学会に出席して——Suomiの言語と生活を中心に——」。ヘルシンキにおける学会出席時の印象についてのスライド供覧とフィンランド語についてテープ録音による

解説などがあった。

講演終了後、今後の歯学談話会について出席者による討議が行われた。従来の歯学談話会は今回をもって終回となり、今後は岩医大歯学会の中に包括されることになった。